

政策・メディア研究科

修士課程 1 年 EG

越田有香

・ 研究科題名

変化に富んだ良好な景観を形成するための設計手法

・ 研究概要

近年、景観をめぐる訴訟問題、景観法の施行などにより景観は国民の生活の上で重要視されている。また、良好な景観形成を各自治体が進め景観問題は注目されている。本研究は、個々の建築がより自由にデザインされながら変化に富む良好な景観を形成するための設計手法を得ることを目的とする。個々の句が自由に詠まれ全体に統一感がある文芸の連歌の手法に着目する。現代になり個性化・多様化するファサードデザインで良好な景観を形成するために、連歌の手法を用いた街並み景観の研究を行う。対象敷地は、個々の建築デザインの個性が尊重される東京銀座の中央通りとし、連続立面図による現状の街並み景観の分析、連歌の手法である展開と全体のリズムを当てはめることによる景観の変化の考察を行い、設計手法の提案をする。

・ 研究背景

2004 年12 月17 日、景観を整備・保全することを目的として景観法が施行された。景観法により建築物の高さ、壁面の位置、デザイン、色彩等が規制され良好な景観の形成が期待される。規制により良好な景観の形成が期待できる一方で、個々の建築のデザインは制限され自由に設計できる範囲は狭くなる。建築技術の発展により、より自由な設計が可能になった現代では個々の建築のファサードは個性的にデザインされるようになり、多様で変化に富む街並み景観になってきている。規制により建築のデザインを制限しすぎると統一感はあるが単調な景観になる。制限がないと個々の建築が自由にデザインされ雑然とした景観になる可能性がある。個々の建築がより自由にデザインされ、変化に富む良好な景観を形成することは難しくデザインの自由と制限の関係が重要であると考えられる。良好な景観を形成することのメリットは、ある地域でしか見られない景観や、そこでしか体験できない空間として個性化をすることができ、その地域に住む人たちが愛着を持つ。地域の人々が愛着を持つことで、地域の景観を守っていこうとし、より地域の価値が個性のある魅力的な場所になると考える。また、観光の場として地域内外から多くの人を訪れることになり観光収入などによる地域活性化も期待できる。

- ・ **研究目的**

本研究では、個々の句が自由に詠まれながらも全体として統一感を持つ文芸の連歌の手法に着目し、個々の建築がより自由にデザインされながらも変化に富んだ良好な景観を形成するための建築設計手法を得ることを目的とする。また、連歌の手法を用いたデザインの制限の度合いによる景観の変化を探り、良好な景観を形成するための制限の度合いの知見を得ることを目的とする。個々の建築の個性が尊重され変化に富んだ街並み景観を形成していると感じる銀座の中央通り（銀座通り）のファサードを対象とし研究を行う。

- ・ **既往研究**

ファサードに関する既往研究には、ファサードを感性的にどのように感じるか、景観を見たときにどのような印象を持ち、ファサードのどの要素と関係しているのかについて高さや開口部、素材などについて研究がされている。伝統的な建物のファサードの研究では、ファサードの構成要素についての考察を行い、伝統的な建物に見えるためのデザイン手法の提案をしているものがある。ファサードについて銀座を対象とした研究も多く、景観とファサードの関係やファサードのタイプについての研究がされている。

- ・ **研究意義**

既往研究の中にはデザイン手法を提案している研究はあるが、個々の建築の個性を尊重して変化に富んだ良好な景観を形成するためのデザイン手法に関する研究は見当たらなかった。また、連歌の手法を用いたデザイン手法の研究は見当たらず良好な景観を形成するための新たな提案をできると考える。

- ・ **これまでの活動**

自身の卒業論文「良好な景観を形成するための規制と個々の建築の自由度-連歌の手法からみた町並み景観の評価-」において、個々の建築がより自由なデザインでありながらも良好な景観を形成するために連歌の手法からみた町並み景観の評価を行いファサードのデザインの手法を探った。個々の建築がより自由なデザインであり良好な景観を形成していると感じるアムステルダムのボルネオ・スポレンブルク島の町並み景観を連歌の手法で評価を行った結果、連歌の手法を用いることにより個々の建築がより自由なデザインでありながら良好な景観が形成できる可能性があるという結果に至った。連歌の手法とは、展開と全体のリズムのことをいう。建築の展開とは、隣同士の建築が同じ要素を持つが隣同士で変化があることと定義している。全体のリズムとは、ある要素が連続と間隔を持ちながら街並み景観に現れることと定義している。

- ・ **本年度の活動内容**

銀座中央通りおよびその周辺のまちあるきを行った。銀座デザインルールの通りごとのルールの内

容と実際の街並みの景観を見て、現状の銀座の街並み景観を確認した。銀座中央通りを対象に1丁目から8丁目までの立面写真の撮影を行い、Photoshop・Illustratorを用いて写真の補正と合成をして、連続立面写真を作成した。文献より、銀座の歴史やデザインルールを調査した。

#### ・ 本年度の活動成果

本年度は銀座の歴史や現状の街並み景観の理解を行い、来年度の研究に向けての基礎を固めた。中央通りの連続立面写真の作成により、連歌の手法の分析を行う準備が整った。



#### ・ 今後の活動予定

個々の建築の個性が尊重される銀座中央通りを対象に連歌の手法に着目し、研究を進め以下のことを明らかにする。

- 1 現在の中央通りの景観が連歌の手法にどれだけ当てはまるのか現状を明らかにする。
- 2 通りの隣同士の建築に連歌の手法である展開を当てはめ、景観の変化を明らかにする。
- 3 通り全体の建築に連歌の手法である全体のリズムを当てはめ、景観の変化を明らかにする。

2・3は、当てはめの割合を変えながら行い、連歌の手法が良好な景観を形成するための手法となるのか、規制と自由の度合いのによる景観の変化はどうなるのかを考察しながら研究を進めていく。

#### ・ 参考文献

- 1) 西村幸夫+町並み研究会, 『日本の風景計画 都市の景観コントロール 到達点と将来展望』, 学芸出版者, 2003年6月30日
- 2) 日本建築学会編, 『都市・建築の感性デザイン工学』, 朝倉書店, 2008年9月10日
- 3) 国土交通省 都市局 景観まちづくり 景観法の概要  
<http://www.mlit.go.jp/crd/townscape/keikan/pdf/keikanhou-gaiyou050901.pdf>
- 4) 廣木一人, 『連歌入門 ことばと心をつむぐ文芸』, 三弥井書店, 平成22.11.25
- 5) 銀座まちづくり協議会・銀座デザイン協議会, 『銀座デザインルール第二版』, 全銀座会・一般社団法人銀座通連合会, 2011年12月20日
- 6) 銀座まちづくり協議会・銀座デザイン協議会, 『銀座デザインルール第二版 追補別冊』, 全銀座会・一般社団法人銀座通連合会, 2015年6月25日